

# TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 29  
SPRING

常磐大学  
 ■大学院  
 ■人間科学部 ■国際学部  
 ■コミュニティ振興学部  
 常磐短期大学

常磐大学高等学校  
 常磐短期大学 附属幼稚園

[2003.3.20.]

発行/学校法人 常磐学園 ■編集/学園報編集室 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/

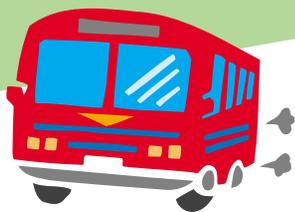


←フォーラム会場には8000人を超える学生が集まった。  
 ↓訪問予定の企業ブースを探すだけでも一苦労だ。



## 活動を「成功」に導く 就職支援バスツアー発進!

2003.1.28 (火)  
 東京池袋サンシャインシティ



「合同説明会は初めてで、たくさんの人に圧倒されました。でも、いろんな企業からお話しかけたので、今後の参考になります」と成果を語った。人間科学部人間関係学科の湯口芳英さんは、もっと焦らなくちゃいけませんね。それに、他の人と同じことをしてただけじゃ駄目だって痛感しました」と就職活動への意欲を表していた。

このバスツアーの内容は、大型バスをチャーターし、東京池袋サンシャインシティで開催される「日経就職フォーラム」に参加するというもの。約五十名の学生たちがリクルートスーツに身を包み、一路東京へと向かった。移動中のバスの中では、バスツアー企画にご協力いただいた株式会社ディスコの専門スタッフが、就職活動に臨む心構えをレクチャーするほか「内定者が語る二〇〇二年採用戦線の動向」というビデオを上映。学生モニターたちが語る二〇〇三年の採用の現場も紹介され、学生たちにとって、残り半年足らずとなった就職活動をいかに行うべきか考える時間となった。

就職活動も、いよいよ本番。年々厳しくなる活動を意識して、すでに学生たちも積極的な取り組みを開始している。そんな学生たちにトップクラスの激戦区である東京の状況を実感してもらうため、本学就職課が企画した「就職支援バスツアー」が平成十五年一月二十八日に行われた。

年を追うごとに、早期化が進みより一層の厳しさを増している2003年の就職戦線。そんな現状に対応する「就職支援バスツアー」が学生たちの期待を乗せて発進した!



「合同説明会は初めてで、たくさんの人に圧倒されました。でも、いろんな企業からお話しかけたので、今後の参考になります」と成果を語った。人間科学部人間関係学科の湯口芳英さんは、もっと焦らなくちゃいけませんね。それに、他の人と同じことをしてただけじゃ駄目だって痛感しました」と就職活動への意欲を表していた。

このバスツアーに参加した地元企業の人事担当者も、茨城県から東京の合同説明会に参加している姿を見ると、担当者の印象も変わるでしょうし評価も上がると思います。いまのモチベーションを維持して、ぜひ最後まで頑張ってください」と、本学の学生たちにエールを送っていた。

バスツアーに参加したコミュニティ振興学部コミュニティ文化学科の山根いずみさんは、「一社の面談に三十分くらいかかってしまい、結局、九社しか回れませんでした。それから、地元企業から回っていたので、東京の企業の方からお話を伺えなかったのが残念です」と、効率的な活動の重要性を実感したようだ。また人間科学部コミュニティ学学科の吉成典子さんは

談をこなすことは困難だ。しかし、こうした現状を体験的に把握することは、今後の活動に大きくプラスになる。そしてなにより、一日で八千人以上の学生が集まるフォーラムは、学生たちのモチベーションを刺激するきっかけにもなった。



人気企業のブース前では学生たちが順番を待つ。

◎シリーズ29 ハコベ

### 春の日だまりに咲く、可憐な白い花

春のちよつとした白だまりの中に、小さく可憐な純白の花を付けるハコベ。春の七草のひとつとしても知られ、昔から日本人にとって、なじみの深い花となっています。名前の由来は万葉集に「波久倍良(ハクベラ)」の名前で登場し、それが転訛したものと、茎が長く連なり「はびこる」ことからハコベラと呼ばれるようになったとも言われています。また、小鳥が好んで食べることからヒヨコグサといふ可愛らしい別名も付けられました。草丈は十二センチで、茎の根に近い部分は地面に接し、花が付く上のほうだけ斜めに立ち上がっています。花期は三月から九月と長く、枝分かれした茎先に小さな白い星のような花を咲かせます。この星形を作る花弁は、五枚でできていますが、深く二つに裂けているので一見したところ十枚。朝の日の光を浴びるといつせいに花を開き、葉の深い緑に映えて、まるで輝いているようです。本学のキャンパスでも至る所で見ることが出来る親しみやすい花なので、少しだけ気に止めて探してみたいかがでしょうか。

春のちよつとした白だまりの中に、小さく可憐な純白の花を付けるハコベ。春の七草のひとつとしても知られ、昔から日本人にとって、なじみの深い花となっています。名前の由来は万葉集に「波久倍良(ハクベラ)」の名前で登場し、それが転訛したものと、茎が長く連なり「はびこる」ことからハコベラと呼ばれるようになったとも言われています。また、小鳥が好んで食べることからヒヨコグサといふ可愛らしい別名も付けられました。草丈は十二センチで、茎の根に近い部分は地面に接し、花が付く上のほうだけ斜めに立ち上がっています。花期は三月から九月と長く、枝分かれした茎先に小さな白い星のような花を咲かせます。この星形を作る花弁は、五枚でできていますが、深く二つに裂けているので一見したところ十枚。朝の日の光を浴びるといつせいに花を開き、葉の深い緑に映えて、まるで輝いているようです。本学のキャンパスでも至る所で見ることが出来る親しみやすい花なので、少しだけ気に止めて探してみたいかがでしょうか。



常磐の四季

就職活動体験記

夢をつかんだ先輩からのメッセージ

いくら就職状況が厳しくても「成功」する学生もたくさんいる。効果的な活動で就職戦線を勝ち抜こう!

荒川 直子

短期大学 教養学科教養コース2年 (茨城県立下妻第一高校出身)

茨城県小中学校職員初級事務合格



て、ちょっとビックリしましたね。もうみんな就職活動を始めたらだっ

学校や地元で開かれる企業合同説明会に参加し始めたのは、一年の二月か三月頃だったと思います。それまでも就職難だっ

周りの振り返り回されずに、自分の意志を貫いてください。

したが、すごくたくさんの方がいて、話がよく聞いていま

自分が向いているのかを探すので精一杯そんな状態の中、三月後半には住宅会

社を受験しました。でも自己分析が足

郡司 明香

人間科学部 人間関係学科心理学専攻4年 (茨城県立下館第二高校出身)

郵政事務A関東地域合格



リフレッシュしながら就職活動を楽しみましょう!

二月のはじめに、東京ビッグサイトで行われた合同セミナーに参加したの

が、最初の就職活動でした。とにかくすごい人で、圧倒されま

りなかつたようで、面接の受け答えにも戸惑ってしまい結果は不合格、公務員試験を受けようと思つたのは、ちょ

うどその頃です。就職の幅を広げるために軽い気持ちでアプローチしてみま

した。郵政事務を選んだのは、以前住

んでいた家の隣が郵便局だったから、身近な存在だったんです。

一次試験は九月に行われました。一般教養と数的処理の問題、そして小論文です。特に難しかったのは、数的処理の問題。大学の公務員就職セミナー

に参加してはダメでした。公務員試験の一次試験では、一般教養と作文が九月の末に行われました。一般教養は五教科すべてから出題されるので、かなり広範囲。でも試験対策として行ってきた通信教育のおかげで、実力が上がったと思います。二次の面接もある程度慣れてきていたので、緊張せずに自分をアピールできました。

山崎 智之

国際学部 国際ビジネス学科4年 (茨城県立水戸商業高校出身)

茨城県警察本部合格



強い意志を持って悔いを残さないように頑張れ!

父が警察官だったからかも知れないんですが、子供の頃から警察官になること決めていました。もちろん大学な

でも、小論文は手応えがありました。テーマは「現代社会と警察のあり方」。ちょうどワールドカップの開催時期だったので、フリーガン対策のような国際的な取り組みの重要性を訴えたんで

す。そして合格通知がきて二次試験、二次試験の面接では、大学で学んだことを中心に聞かれました。でも中には「日本のビジネスと海外のビジネスはどう違うか」なんて質問もあって、ちょっとびっくりしましたね。

僕の就職活動が成功したのは、絶対に警察官になるんだという気持ちがあったからだと思います。面接のときも、土壇場で、ヤッテヤル!というパワが湧いてきました。就職はこれからの自分を左右する大きな岐路です。皆さんも悔いの残らない活動ができるよう、しっかりと目標を定めて頑張ってください。

に合格通知がきて二次試験、二次試験の面接では、大学で学んだことを中心に聞かれました。でも中には「日本のビジネスと海外のビジネスはどう違うか」なんて質問もあって、ちょっとびっくりしましたね。

公務員試験の一次試験では、一般教養と作文が九月の末に行われました。一般教養は五教科すべてから出題されるので、かなり広範囲。でも試験対策として行ってきた通信教育のおかげで、実力が上がったと思います。二次の面接もある程度慣れてきていたので、緊張せずに自分をアピールできました。

公務員試験を受けるんだしたら、早めに対策を取っておいたほうが良いと思います。慌てて勉強を始めると結構大変ですよ。結局、就職は自分自身のことなので、あまり周りに振り回されず意志を貫いて挑戦してください。

公務員試験の一次試験では、一般教養と作文が九月の末に行われました。一般教養は五教科すべてから出題されるので、かなり広範囲。でも試験対策として行ってきた通信教育のおかげで、実力が上がったと思います。二次の面接もある程度慣れてきていたので、緊張せずに自分をアピールできました。

生涯学習センター「特別講演会」開催

常

磐大学生涯学習センターの主催による特別講演会が、平成十五年三月四日に本学H棟で開催された。

講師としてお招きしたのは、故小淵首相私的諮問機関「二十一世紀日本の構想」懇談会の座長、教育改革国民会議委員、文科科学省顧問など、日本の政治・教育に広く貢献する臨床心理学者で、文化庁長官の河合隼雄氏。新しい家族関係、家庭教育を考える」と題された講演会には四百人を超える聴衆が詰めかけ、大講義室はすぐに満席。別室のモニター前にも聴衆を集めての開催となった。

内容は、生活の変化と物質

的豊かさからくる親子関係の問題、臨床心理学者としての経験談を交えながら対策をレクチャーしていただき、約一時間の講演は終了した。この特別講演会は、今後、毎年開催される予定だ。



関西弁の楽しい語り口で、聴衆を引き付ける河合隼雄氏。

●発表ではパワーポイントも使用する。



課題研究\*リポート 起業者ゼミで、ビジネスを総合的に理解! 短期大学の学生が、一年間かけてひとつのテーマに取り組み課題研究。その集大成である「起業者ゼミ」のプレゼンテーションが一月十五日に行われた。

この起業者ゼミは、学生が企業の経営者となり新規事業を起こすという設定で行われるもの。架空の企業といっても名称、所在地なども特定し、メンバーが企業を立ち上げるという設定で行われるもの。架空の企業といっても名称、所在地なども特定し、メンバーが企業を立ち上げるという設定で行われるもの。架空の企業といっても名称、所在地なども特定し、メンバーが企業を立ち上げるという設定で行われるもの。



今回の発表に参加した経営情報学科の大輪おろさん。写真は「就職して与えられた仕事はどう機能するのか理解できるようにしたいな」と話しています。それから、就職活動のアドバイスポイントにもなりました。と笑顔を見ながら、指導する李精専任講師が「経営情報学科の教員が専門から見た起業者個人に講義する、賢いなゼミ」と語るように、さまざまな効果が期待できる取り組みといえよう。

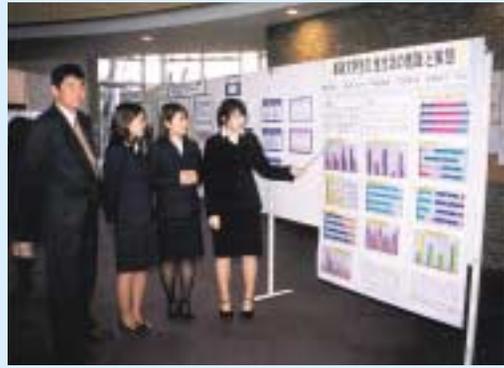
## Pick Up! 14 現代人の「食」と「健康」を考える。

茨城県栄養健康改善学会  
物質的な豊かさから、精神的、身体的豊かさへと新しい価値観を求め始めた現代社会において、人々の健康に対する関心は非常に高まりつつある。

そんな中、茨城県栄養士会及び茨城県内の管理栄養士・栄養士養成学校の共催により、本短期大学学部長の中原経子教授を会長とする『第一回茨城県栄養健康改善学会』が、平成十五年二月十四日、本学で開催された。

今学会では、本学コミュニケーション振興学部、秦蔵哉教授が「高齢者の自立障害と栄養」と題して基調講演を、また、大塚製薬株式会社の宮崎拓巳先生をお招きし「栄養サプリメントの活用方法について」というテーマで講演していただいた。

分科会では口頭発表が、またロビーでは、栄養士を目指す学生たちを含めたポスター発表も行われた。学校給食



ポスター展示説明を行う食物栄養専攻の学生

## Pick Up! 26 東関東大会で『銀賞』受賞!

アンサンブルコンテスト  
吹奏楽より少ない楽器編成で、美しい合奏を競う『第八回東関東アンサンブルコンテスト』が平成十五年一月二十六日に神奈川県民ホールで開催され



東関東大会で『銀賞』を受賞したメンバーたち。

### 『銀賞』受賞!

本学吹奏楽団のメンバーたちが美しい演奏を披露した。昨年十二月二十三日に開催された茨城県大会で、県代表に選ばれた出場だ。

当日はトランペットを中心とする金管楽器で編成された、八人のグループで出場。栃木、千葉、神奈川、茨城の四県から集まったライバルたちを相手に、『銀賞』受賞という好成績を修めた。

チューバを担当した国際学部国際協力学科二年の鈴木宏幸さんは「はじめに演奏するホールなので、やはり緊張しました。なんだかアツという間に終わってしまった感じなので、チャンスがあったらまた出場したいです」と来年への意気込みを語り、トロンボーンを担当した人間科学部組織管理学科四年の池上真由美さんは「ここまでこれてスゴイと思う反面、もう終わりかと思うと、何だか悔しかったですね」と、なごり惜しそうに話していた。

## Campus Topics! \*



### センター試験に本学が会場

受験シーズン到来を告げる大  
学入試センター試験が一月十八、十九日の両日、本学で行われた。

本学では、今年からセンター試験を入試試験に取り入れたために、初めて会場になった。

当日は、千人の受験生たちが、朝早くから本学に集まった。時間になると緊張した表情で教室に入室。試験官から問題が配られると、チャイムの合図と共に、鉛筆片手に熱心に問題を解いていた。

また、休憩時間になると、学生ホールや総合情報センターなどで教科書を開き、テスト前のチェックをする受験生の姿が見られた。

本学では、受験生に備えて、キャンパス内に仮設トイレ三十個を設置するなど万全の態勢で本番を迎え、二日間の日程を無事終了した。



→今年から大学入試センター試験の会場となった本学で、問題用紙が配られるのを待つ受験生。

## 就任の挨拶

### 自らの「軸足」をしっかりと持とう

常磐学園 理事長 諸澤 英道

MOROSAWA HIDEMICH I



一方、情報化、国際化に関しては、それなりの取り組みは行ってきましたが、必ずしも満足に進められてきたとは言えません。逆に言えば、常磐大学のこれからの課題もまた、ここにあると言えます。

早いもので、一九八三年に常磐大学が開学して以来、四半世紀の月日が過ぎようとしています。開学以来、大学としては、第一に情報化、第二に国際化、そして第三に学際性、この三つをキーワードに取り組んできました。第三の学際性に関しては、相互乗り入れ方式に見られるように、専攻分野に縛られない自由な科目選択ができるなど、常磐大学の特徴として生かされて

### 学生を大切に作る大学づくり

常磐大学・常磐短期大学 学長 大堀 哲 OOHORI SATOSHI



常磐大学・常磐短期大学が新たに取り組んでいるものとして、学生の海外研修の充実や交換留学制度の推進など国際交流の活発化、より一層の情報化の推進、学部・学科のカリキュラムや大学院の充実、研究所の設置などがあります。そしてこれまでに以上に教職員が一丸となって進めていかなければならないことは、「学生を大切に作る大学づくり」です。勿論それは学生を甘やかすことではありません。最大限、学生一人一人の声を傾け、それに

平成十五年一月十四日、諸澤正道常磐学園理事長・常磐大学学長・常磐短期大学学長が退任し、翌日、理事長後任に諸澤英道教授、学長後任には大堀哲副学長が就任しました。お二人が考える、今後のビジョンをお聞きください。

門とする教授を務めています。来年度からゼミを開講する予定ですが、ゼミ生は全学科にまたがっていることが理想です。そうなることで、それぞれ専門の立場からの意見が聞かれ、学生同士の意見も活発になるでしょう。例えば、ある犯罪に対して、ある者は心理学、ある者は教育学、ある者は組織学、あるいはコミュニケーション学など、それぞれの立場から意見が飛び交うはず。

「ほう、そんな見方もあったのか」と、同じテーマでも、さまざまな視点から捉えることができ、大いに勉強になるでしょう。

こうしたゼミが可能となるのも、それぞれの軸足がしっかりと立っていることだと思えます。

までもありません。大学としては以上のような考え方を中心に学生の教育指導に当たることとしていますが、この機会に学生諸君に望んでおきたいことがあります。近年日本の学生の学力低下がしきりに問題視されており、語学力、思考力や創造力などの低下が著しいとの指摘です。しかし、いくつかの調査に見られるように高校生までの日本人の基礎学力は欧米諸国と比較しても決して低くはありません。大学に入ったとたんに学ぶことをやめてしまった学生が多いのでしょうか。せっかく養った基礎学力、これを伸ばすかどうかは大学時代に決まると言っても間違いではありません。「遊ぶために大学に行く」とか、「大学さえ出れば何とかなる」となどの安易な考えではなく、目標を持って日々真剣に学ぶとする学生を常磐は求めていることをしっかりと認識してほしいと思います。

音楽には国や民族を超えて、人を感動させる不思議な力がある。そんな音楽の素晴らしさを幼児教育に取り入れてくれているのが、現在、ピアノの演奏家としても活躍する泉先生だ。感動を体験し、楽曲を理論に基づいて分析する。さまざまなアプローチを通して、音楽の魅力を学んでみよう！

■短期大学・幼児教育保育学科 泉利々子専任講師に聞く

# 感動と理論に基づく分析で 音楽の素晴らしさを伝える

音楽と人間との関わりを 専門的に研究

泉先生が日本に帰ってきたのは昨年の冬。それまでの約十年間は、ニューヨークを中心に、音楽、特にピアノのスペシャリストとして活躍してきた。同志社女子大学音楽学科ピアノ専攻を卒業後、マンハッタン音楽院ピアノ科に入学。修士号、プロフェッショナル・スタディーズ、博士号などを取得した後、しばらくの間アメリカでの活動を続け、昨年の四月から常盤短期大学・幼児教育保育学科で教壇に立っている。



「手づくり楽器」を持ちよる学生たち

「マンハッタン音楽院の博士課程プログラムには、教育法の授業がありました。大学で講義ができるくらい知識を身に付けることも、学校の教育方針のひとつだったのです。」

ピアノ専攻というと、演奏テクニクの上を目指しているように考えがちだが、決してそうではない。泉先生が卒業論文で取り上げた「タランテラ」というイタリアの民俗ダンスに関する考察も、そのダンス音楽が生まれた歴史的背景や、言語、そして当時の社会における女性のあり方などにまで言及した、ある意味で文化人類学的な内容になったという。

「つまり、人間と音楽との関わりをテーマにした取り組みです。この世に生まれたときから、人間はどのような影響を音楽から受けているのか。また、人間は音楽をどのように使ってきたのか。そういった幅広い意味で音楽を研究してきました。」

人間と音楽の関係を深く追究してきた研究成果は、もちろん幼児音楽教育という学問のフィールドでも大いに活かされている。

## 理論と体験の両面から 音楽の感動を伝える

泉先生が担当しているのは『器楽』

いずみ りりこ  
同志社女子大学教育学部音楽学科ピアノ専攻卒業。マンハッタン音楽院ピアノ科博士課程修了。音楽博士ドクター・オブ・ミュージカルアーツ。専門：ピアノ。●日本音楽学会会員。平成十四年四月より現職。

— 幼児音楽教育学 —



『音楽の基礎』『幼児音楽教育法』という二つの授業。これを段階的に習得することで、幼児教育に対する音楽的アプローチを行っている。

「子どもたちに人気がある歌や長く唄い継がれている唄などには、理論的に説明できる理由があります。だから楽譜をそのまま音にするだけではなく、歌詞との関連や曲の構成を分かって弾くことが大切なんです。そこを分かって弾いているかどうかで、乳幼児に対する伝わり方が違ってきます。」

これはクラシック音楽でも、わらべ歌でも同じこと。泉先生によると、「いつまでも名曲として残っていくものには、なぜそれが人間の心に強くうったえかけるのか、ある程度まで、分析によって理由を解き明かすことができる」といふ。『音楽の基礎』という理論の授業を一年生で行つたのも、こういった重要性を理解してもらつたため。ピアノがどんなに上手でも、勉強することはたくさんあるということだ。

「それから理論的なことを踏まえた上で、音楽を愛し、興味を持って弾くことも経験してほしいのです。」

学生たちにも、音楽による感動を身体で感じてもらいたいと、ニューヨーク時代の恩師を学校に招き、ピアノ演奏を鑑賞する授業も行った。「夫婦で連弾のコンサートを開いていただいたのですが、プロの演奏を聴くのは初めてという学生もいて、とても感動していたようです。こうした生の感動をみずから体験し、それを乳幼児に伝えられたら素敵ですね。」

## 子どもと学生の心を ひとつになく「音楽」

また、優れた保育者を育成する実践的な授業も特色のひとつ。

「十人ぐらいのグループの中で、ひとりの子が先生に、他の学生が園児になるという実際の現場を想定した授業も行っています。遊び歌などで先生役の学生が「右手を上げて」「って言う」と、園児役の学生が「右手でどっちの手？」って質問したり、みんな楽しみながら学んでいるようです。」

こうした授業で行う『遊び歌』は毎週レポートとして提出し、卒業までには一冊の本になる。自分で書いた歌詞やイラストが詰まった遊び歌の教則本は、学生たちの貴重な財産だ。

「それから、どんな子どもが来てても楽しめることができる、そんなスキルも身に付けてもらいたい。そこで取り上げる音楽の範囲を、もっと広げようと考えています。」

昨年は『手話』を授業に取り入れた。手話で唄う歌は学生たちの視野を広げるだけでなく、表現力を向上させるという効果も期待できる。

「小さいことにも喜びを見い出せる繊細な心を持つことで、幼児の純粋な心に近づけると思っています。一つひとつのことに丁寧な目を向け、自分の感動を素直に表現することができる、そんな保育者を育てたいですね。」

子どもたちの心と学生の心をつなぐ架け橋。そんな音楽の素晴らしさを泉先生は学生たちに伝えている。

『高大連携推進事業』 来年度よりスタート！

## 高校生たちにキャンパスを開放

高 校生が大学の講義を大学生と共に受講したり、大学の教授たちが高校で年に十五回程度の特別講座を開く『高大連携推進事業』が来年度よりスタートする。これを前に、茨城県教育委員会と本学をはじめとする県内の七大学が、平成十五年二月二十四日、水戸市内で協定書に調印した。



●七大学が県教委と協定書に調印

## 地域に開かれた大学づくりをめざして！

今回対象となるのは茨城県内の県立高校生。このシステムの導入により、各大学が指定した通常の授業や公開講座などの受講が可能となり、年間を通して一定時間を受講することで、「学校外の学修」として単位認定される。

今回調印したのは常盤大学ほか茨城大学、県立医療大、茨城キリスト教大、つくば国際大、東京家政学院筑波女子大、流通経済大の計七大学。筑波大学は現在、学内の調整を行っており、準備が整い次第、調印の見込みだ。本学の大堀哲学長は「現在実施している、夏季セッション科目等で対応を考えています」とコメントしている。



●調印式に出席した大堀哲学長

## 編集後記

今年も春がやって来た。この季節の話題と言えば、卒業、入学が最も代表的な行事だろう。しかしもうひとつ、学生たちが将来を決める、大切な季節が始まる。そう、就職シーズンの到来だ。今年も就職難という言葉が、あちこちで耳にする。しかし『就職難』、『就職氷河期』という言葉は、バブル期と

比較して使われている言葉である。バブル期を知らない学生にとっては、現在の就職活動が普通であるはずだ。言葉でマイナスイメージを抱いても仕方ない。事実、今回取り上げた内定者のように成功を勝ち取る学生も大勢いるし、企業も優秀な人材を確保したいという気持ちに変わりはないはずだ。しかし、就職活動が大変なことは事実。後悔のないようプラスイメージを持って、ぜひ頑張っていたきたい。